

第74回大島一周駅伝競走大会・第1回周防大島リレーマラソン 新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン

2022.9.15

本ガイドラインは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、また本大会にお申し込みいただいた方に安心して大会にご参加いただくために作成したものであり、新型コロナウイルス感染状況などにより変更がある可能性があります。

下記の項目をよくお読みいただき、内容を承諾したうえでご参加下さい。
安心・安全な大会運営にご協力いただきますようお願いいたします。

◆新型コロナウイルスの影響による中止基準◆

1. 開催当日に緊急事態宣言が発出されているとき
※イベントの中止または自粛が含まれていない場合には、開催を検討する。開催にあたっては、日本陸連の「ロードレース開催についてのガイダンス」に従い、感染リスクをできる限り軽減させる策を講じる。
2. 県内における医療体制のひっ迫が懸念される場合
3. その他新型コロナウイルス感染状況に対する十分な対策が取れないとき
※関係者の健康管理やスタッフの動員が困難な場合など

◆新型コロナウイルス感染症予防の基本方針◆

1. 関係者全員の事前の体調管理と報告、事後記録
2. 当日会場での検温の実施
3. マスクの着用(競技時を除く)
4. 手指の消毒
5. 3密(密閉、密集、密接)の回避
6. 換気の徹底(更衣室内や移動中の車内等)

◆新型コロナウイルス感染症対策室の設置◆

1. 本大会における新型コロナウイルス感染症対策室を設置する。
2. 同じく新型コロナウイルス感染症対策責任者を置く。

新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 対 策 室	周防大島町教育委員会社会教育課内 大会事務局 0820-78-5048
感 染 症 対 策 責 任 者	大島郡体育協会 事務局長 木嶋 勇人

感染症対策(対象者:全員)

◆会場における感染予防策◆

1. マスクの着用の徹底(屋内では不織布マスク)
 - ①チーム関係者、主催者、大会役員、大会事務局、競技役員、警備員、コース整理員、警察、報道関係者、設営業者などすべての大会関係者に常時マスク着用を要請する。
 - ②競技者には、競技中(ウォーミングアップ、クールダウンを含む)以外のマスク着用を要請する。
 - ③競技者の体を支持するなど直接接触する可能性があるスタッフはフェイスシールド、手袋、ガウン(防護服)などを着用する。
2. フィジカルディスタンスの確保
 - ①会場では可能な限り他人との距離を確保し、必要以上の会話を避ける。特にチーム関係者と大会スタッフの密な接触を防ぐ対策を実施する。
 - ②受付など、対面での対応が必要な場所にはパーティションを設置する。
3. 手指の消毒場所の確保
 - ①競技者の待機場所、大会役員や運営スタッフが滞留する場所には可能な限りアルコール等の手指消毒剤を用意する。
 - ②布タオルは使用せず、使い捨てペーパータオルを用意する。(※アルコール消毒液、ペーパータオル等の消耗品はスタート、中継所、フィニッシュなどに大会側が準備。マスクは参加者各自が用意する。ただし、大会側で緊急時に備えて予備のマスクを準備する。)
4. イベントの中止・簡素化
 - ①大会1週間前の「監督者会議」の内容は書面で送付する。
 - ②大会当日の「開会式」は、感染症対策を施したうえで、屋外で簡素に行う。
 - ③大会当日の「表彰式」は、感染症対策を施したうえで、簡素に行う。
5. その他
受付や会議、式典などで使用する物品はこまめに消毒する。

◆当日の医療体制◆

1. 医師らが医療班用車両でレースに随行する。異変があった場合には医師の指示に従う。
2. 当日の感染者発生に備え、医療用個人防護具(フェイスシールド、手袋、マスクなど)を準備する。
3. 当日の感染者発生に備え、町健康増進課や保健所などとの緊急連絡網を準備する。

感染症対策(対象者:競技者・監督・コーチ・チーム関係者)

◆感染者、濃厚接触者、感染疑い者の参加・従事の可否◆

1. 感染者への対応

大会開催日の1週間前の時点、もしくはそれ以降に競技者・監督・コーチ・チーム関係者が PCR 検査もしくは抗原検査で陽性だった場合、陽性になった者の出場、帯同を認めない。

※競技者及び出場チーム関係者は、発症もしくは検査で陽性になった日の翌日を1日目と数えて少なくとも8日経過し、かつ薬剤を使用せずに症状消失後 72 時間経過した場合は出場を認める。

2. 濃厚接触者への対応

大会開催日の1週間前の時点、もしくはそれ以降に濃厚接触を疑われる場合は、自宅待機・健康観察の方法について保健所の指示に従うことと、出場チーム関係者との接触を禁止することを要請する。

3. 感染疑い者への対応

大会開催日の1週間前の時点、もしくはそれ以降に出場チーム関係者が、感染疑い症状(発熱、咳、咽頭痛、息切れ、全身倦怠感、下痢、味覚障害等)を発症した場合(感染疑い者と呼ぶ)、もしくは感染疑い者に接触した場合には、当該者の出場、帯同を認めない。ただし、感染疑い者が症状消失後 72 時間以降に抗原定性検査キットによる検査を実施し、陰性である場合は、感染疑い者及び感染疑い者に濃厚接触した者の出場を認める。

◆感染症発生時の対応◆

1. 感染症対策室は、出場チーム関係者から発症の報告を受けた場合の対応方針を町健康増進課と事前に検討する。
2. 大会終了後、2週間の健康観察期間に出場チーム関係者が新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、本人かチームの代表者が、感染症対策室に速やかに連絡する。
3. 感染者が出た場合、町健康増進課に連絡し、指示に従って協力する。
4. 感染症対策室は、町健康増進課や保健所等と連携しながら、感染者の公表、その内容を決定する。情報の公表にあたっては、感染者に対して不当な差別及び偏見が生じないように個人情報の保護に留意する。

◆大会前から終了後までの体調管理と感染症対策◆

1. 大会の1週間前からの体調管理および検温を実施し、「体調管理チェックシート」により各チームの代表者もしくは個人が管理する。
2. 各チームの代表者はチーム関係者の健康状態を確認し、大会当日に関係者全員分の体調管理チェックシートを受付で提出する。
3. 「体調管理チェックシート」による健康状態の報告をしていないチームは、出場を認めない。
4. 大会当日、監督・コーチ・競技者は会場到着時に検温を実施し、37.5 度以上と確認されるなど体調に異常があった場合には、大会本部の医師の指示に従う。
5. 体調が不確かな人がいたときは、その場で検温を実施し、大会本部の医師の指示に従う。
6. 競技中を除きマスクの着用を義務とし、マスクをしていない人に対し注意を促す。手指の消毒の徹底を呼び掛ける。
7. 会場では、唾(つば)や痰(たん)を吐くことは慎む。
8. 大会終了後2週間の体調管理・検温を実施する。37.5 度以上と確認されるなど体調に異常があった場合には、最寄りの保健所などの指示に従う。新型コロナウイルスなど感染症に感染した場合は、すみやかに大会事務局に連絡する。

◆レースの管理◆

1. スタート・フィニッシュ地点、中継所 使用者が触れる場所については、こまめに消毒する。特に中継所の仮設トイレは、ドアノブ、レバーなど、こまめに消毒する。

2. ごみの処理 飲み残し飲料や鼻水、唾液などが付着したごみは自己責任で処理(原則として持ち帰り)するよう周知する。

3. スタート前

①更衣室や更衣車両では、他の競技者、スタッフと距離が近くならないように呼びかける。

②競技者が長く更衣室や更衣車両に滞留しないよう促す。

4. フィニッシュ後

①速やかに競技者を指定区域へ移動するよう、スタッフが誘導する。

②競技中、フィニッシュ後に倒れ込んだ競技者の対応は、防護体制を整えたスタッフで対応する。

③レース終了後は、不織布マスクを配布し、手指のアルコール消毒、手洗いを促す。

5. リザルト(結果)の確認

リザルトを掲示することによる密集を避けるため、掲示をせずウェブでの確認を促す。

感染症対策(対象者:スタッフ)

◆大会スタッフ(大会役員、競技役員、警察、警備員、コース整理員、大会事務局、報道関係者、設営業者など)の対応事項◆

1. 感染予防対策を目的に個人情報を取得する必要がある場合、健康に関する情報は要配慮個人情報にあたるため、「体調管理チェックシート」にて必ず同意を取る。

2. 大会前1週間の検温・体調管理を必須とし、各団体の責任者が管理する。異常があった場合は、感染拡大防止のために業務従事の辞退を求める。

3. 大会当日は、それぞれ所定の場所で検温を実施し、37.5度以上と確認されるなど体調に異常があった場合には、大会本部の医師の指示に従う。

4. 大会終了後2週間は、各々が体調管理・検温を実施する。37.5度以上と確認されるなど体調に異常があった場合や、新型コロナウイルスなどの感染症に感染した場合は、最寄りの保健所などの指示に従い、すみやかに大会事務局に連絡する。

感染症対策(対象者:観衆)

◆観衆への対応◆

1. スタート、フィニッシュ地点付近では、カラーコーンやバーで立ち入り禁止区域を設け、3密状態の発生を防ぐ。

2. 沿道では、観戦や応援の人たちによる3密状態を回避するため、広報車によるディスタンスの確保を呼びかける。

【参考資料】

①「陸上競技活動開催のガイダンス(第4版)」(公益財団法人 日本陸上競技連盟)

②「ロードレース開催についてのガイダンス(第3版)」(公益財団法人 日本陸上競技連盟)